

鳥羽市部活動検討委員会 会議録

会議の名称	第1回鳥羽市部活動検討委員会
開催日時	令和4年10月27日(木) 18:30~19:30
開催場所	鳥羽市民体育館 中会議室
内容	<p>■第1回鳥羽市部活動検討委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育長あいさつ 2. 委員長・副委員長選出 3. 自己紹介 4. 議長選出 5. 説明事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 鳥羽市部活動検討委員会の設置目的 (2) 休日の部活動の地域移行に向けた国等の状況 <p style="margin-left: 20px;">【国の方向性】</p> <p style="margin-left: 40px;">休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする。</p> <p style="margin-left: 40px;">○目標時期：令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目標</p> <p style="margin-left: 20px;">(合意形成や条件整備等のため更に時間を要する場合にも、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指す)</p> (3) 市内中学校の部活の現状とアンケート結果 (4) 地域スポーツ団体の現状とアンケート結果 (5) 今後のスケジュール 6. その他
	<p>■第1回鳥羽市部活動検討委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育長あいさつ 2. 委員長・副委員長選出 3. 自己紹介 4. 議長選出 5. 説明事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 鳥羽市部活動検討委員会の設置目的 <p style="margin-left: 20px;">○事務局 資料P1~3説明</p> <p style="margin-left: 20px;">文科省から令和5年度移行、休日の部活動を段階的に地域に移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が部活動の指導に従事しないこととする方針が示された。本市においても、段階的な地域移行を進めるにあたり、必要な事項を定めるため、鳥羽市部活動検討委員会を設置。</p> <p style="margin-left: 20px;">目指す姿：将来にわたり子ども達がスポーツに親しめる機会の確保に向けて</p> (2) 休日の部活動の地域移行に向けた国等の状況 <p style="margin-left: 20px;">○事務局 資料P4~5説明</p> <p style="margin-left: 20px;">少子化により学校単位でのスポーツの場の確保が難しくなっているものの、部活動数はあまり減少していない。通常の授業の準備等に加え、近年ではICT教育機器への対応等業務が増え、教員の負担は増加している。また、教員志望者数が減少しており、教育の質の維持、向上が課題となっている。鳥羽市内の教員を対象にしたアンケートでも、部活動を指導したいと考える教員は9%しかおらず、持続可能な部活動への移行が望まれている。</p> (3) 市内中学校の部活の現状とアンケート結果 <p style="margin-left: 20px;">○事務局 資料P6~7説明</p> <p style="margin-left: 20px;">市内中学校1・2年生、小学校4~6年生を対象としたアンケートでは、現状の部活動の状況に不満足な生徒は少なく、やってみたい活動としてはバドミントン、プログラミングへの</p>

関心が高い結果となった。

(4) 地域スポーツ団体の現状とアンケート結果

○事務局 資料P 8～17 説明

スポーツ少年団、体育協会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員協議会へ部活動の地域移行に関するアンケートを実施。

学校部活動との連携が可能か、指導できる人材はいるか等の質問をしたところ、人材確保が難しい、ケガ対応時等の責任の所在について、会費や旅費・用具にかかる費用について等課題が多くあがった。

(5) 今後のスケジュール

○事務局 資料P 18 説明

令和6年度から出来る競技で移行を目指すものの、費用が発生しない活動で令和5年度中に移行できるものがあれば移行していく。

【委員意見】

○文化的な部活動は検討していかなくて良いのか。

→スポーツが先行しているため、本検討委員会では、運動部活動の移行について協議をしていく。(事務局回答)

○答志でソフトボールをやりたい子を集めてチームをつくった。メンバーが足りず、東中の生徒や他市の子もいる。東中の生徒は、ソフトボール部がないため他の部活に入っており、普段はソフトボールができていない。

普段は数人でもできる練習をし、休日にクラブチームで活動するといった形を認めるなど、選択肢を増やし、やりたいことをやれるような形にしてほしい。

○部活は顧問を2人つけており、部活数を増やすとなると現状では教員が足りず難しい。

中体連の大会で、バトミントンでは、10地区ある区分を11地区にし、クラブチームの参加を認めるといった動きがある。現状に即した形で大会への参加等ができるよう中体連でも協議され、動いている。

子どもたちの現状として、中学生になって突然野球をしよう、バスケをしようという子は少ない。小学校まででスポーツ活動のなかった子どもは専門性の低い部活を選びがち。中学生になった時に選択肢を増やせるよう、小学生も巻き込んでいくことを考えるのも良いではないか。

○中学生は競技力や成長過程に幅がある。

楽しむことか、勝利か等どの方向でいくのか決めるのは難しい。